

平成28年度第4回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成28年11月21日（月）18：00～20：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、須田委員、松浦委員、高田委員、斎藤アドバイザー、バンダイナムコスタジオ（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

構想力・実践力を目指した分野横断型 PBL 授業モデルについて、情報通信系教育、コンテンツ・サービス系教育、ソフトウェア開発のモデルについて以下のような検討が行われた。

社会の動向から、人体に貼るセンサーの実用化、ネットつぶやき意見の活用、汎用 AI 技術の活用などがテーマの参考になるのではないかと、あるものを活用して組み合わせる利用することの必要性の意見も合わせて、委員からの提案が議論された。

(1) コンテンツ・サービス系教育モデル

- ・ 1.2年次のモバイルコンテンツ、2.3年次のゲームデザインが提案された。
- ・ コンテンツ・サービスについての全体の思考部分の説明が必要ではないか。
- ・ 地域の創造性を高める目的など地域・企業からどのような問題があるのか、問題の流れの説明が必要ではないか。ジャンル別に問題を社会との関わりや構造的な関係を示す必要があるのではないかと。例えば高齢者の相手をするような問題解決などが考えられないか。
- ・ ルール・制限のない発想を活かすモデルを目指してはどうか。

(2) ソフトウェア開発系教育モデル

- ・ 困っている人と話し合い改善策を提案（相談）しながら素案を考える。評価は、コンテスト、ソース公開でのダウンロード数で計算、サービス提供してユーザ数を計算などが提案された。
- ・ ソフトウェア開発は、コンテンツ・サービス系とどのような違いがあるのか、差別化や特長の部分について意見交換されたが、プログラム等の作成部分を担うという理解で情報通信、コンテンツ・サービスともに関連があることが確認された。
- ・ ソフトウェアの領域で限定した技術で作成することを目指してはどうか。

(3) 情報通信系教育モデル

- ・ IoTを基本として、高齢化・少子化・経済沈滞化の問題をコンセプトで考えている。
- ・ 一つは高齢社会でのレジャー問題、二つはロボットを活用した見守り問題をテーマ例とした。
- ・ 学生プロジェクトとしては、サービス定義、計測・制御技術、センサー・機器の利用階層について整理させる進め方が提案された。
- ・ 8年間カリキュラムが変更できない問題を提起して大学の考え方を変化させる方向にしたい。
- ・ 3つそれぞれの考え方・背景・教育の概念的なことをコンセプトとして整理する必要がある。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の委員会は12月20日に開催し、3モデルの発表内容を確認することになっている。また、コンテンツ・サービス系教育モデルは12日に個別に打ち合わせ会を開催して検討することにした。